



## 平成18年度 天竜川水系崩壊地現況調査(遠山川流域編)

工期：平成18年8月25日～平成19年1月31日

遠山川流域の現況把握に努め、今後の砂防事業の基礎資料とすることを目的として、出張所・事務所職員とともに、源頭部稜線、渓流を踏査しながら、詳細な地形・地質条件などを調査しています。

### 遠山川上流域 現地調査実施中!

#### 山行工程

- 9月4日 便ヶ島(発) 薊畑分岐 小聖山頂(聖大崩壊地調査) 聖平小屋(泊)
- 9月5日 聖平小屋(発) 聖岳 兎岳山頂(崩壊地調査) 聖平小屋(泊)
- 9月6日 聖平小屋(発) 南岳(崩壊地調査) 上河内岳 茶臼小屋(泊)
- 9月7日 茶臼小屋(発) 茶臼岳(崩壊地調査) 易老岳 易老渡(着)

#### 調査内容

- 崩壊地規模の把握
- 渓流調査  
(渓床および溪岸の状況把握)
- 地質状況の把握
- 林相・植生調査

#### 聖岳から兎岳付近に見られる赤色チャート



けい質の殻をもつ微生物(ラジオリリア=放散虫)の死骸などが堆積した赤色の岩石チャート

#### 渓流調査実施状況



東沢

諸河内

易老沢



比較的新しい大規模な崩壊



聖岳より望む富士山の御来光



上河内ガレ



ライチョウ(キジ目/ライチョウ科)

国の特別天然記念物。南アルプスはライチョウの生息地としては世界の南限とされています。



聖岳大崩壊地

遠山川源頭部の荒廃状況を把握するため聖岳 兎岳 (聖岳) 上河内岳 茶臼岳のルートにより、稜線から遠山川源流部の現況調査を行いました。

調査地点は砂岩と粘板岩の互層を呈する四万十帯(中世代末期の白亜紀を中心とした地層)が分布します。調査を実施したいずれの崩壊地も露岩が多く見られその状況は受盤を呈し、崩壊性の高い斜面形態という事がわかります。

渓流調査は、聖岳、兎岳、上河内岳の大規模な崩壊地より生産され下流域へ流下した土砂の状況を把握すべく実施しています。河道には不安定土砂が厚く堆積しており、どの渓流についても共通して巨石(3~5m規模)が点在しており溪床を固め、滝あるいは狭窄地形により土砂調節が適度に行われています。しかし、溪岸侵食、崩壊は今もなお起きており、河道へ土砂生産が行われている状態にあります。今後さらに詳しい調査を実施し、今後の砂防事業の基礎資料とするための綿密な調査を行っています。

#### 湯ノ沢崩壊地調査

平成17年8月12日に遠山川左支流の湯ノ沢から多大な土砂が流出しました。事務所では、上流部の大規模崩壊や流域の荒廃状況を把握すべく、専門家を交え現地調査を行いました。調査の結果、河床不安定堆積物の2次移動が確認されました。



平成17年 8月12日 土砂流出  
8月15日 合同調査(国・旧村)  
10月20日 崩壊地合同調査(国・市等)

土砂流出前(H17.8.12撮影)  
遠山川本川湯ノ沢合流点付近

土砂流出後(H17.8.15撮影)  
流出した土砂により本川河道が閉塞され天然ダムが形成された。

現場代理人 境澤  
調査員 中島  
調査員 代田



事務所 中島係長  
事務所 福山技官  
出張所 安藤技術係長  
安全に留意して調査に取り組んでおります。

この大自然に触れ合いながら遠山谷の奥地まで調査にあたっています。最近、季節の変わり目で肌寒くなりましたが、体調管理に留意しながら流域特性を後世にも伝えていくために、しっかりと取り組みたいと考えております。

(境澤)



株式会社 **ゼンシン**  
主任技術者 田中 洋治  
現場代理人 境澤 昌志